

- 自ら考え、表現できる人（創造）
- 仲間とともに高め合える人（共生）
- 心身ともにたくましい人（健康）

## 卒業生117名が学び舎を巣立つ

### 3年生にとっても、1, 2年生にとっても新たなスタート

喜劇王チャーリー・チャップリンは、「あなたの最高傑作は何ですか？」と尋ねられて、こう答えたと言います。「次の作品だ。(The next one is the best.)」

第3学期の最初の職員会議の冒頭で、私は職員にこう呼びかけました。

卒業式には「今度の卒業生が私たちの最高傑作です。」、卒業式が終わったら、「来年の卒業生が最高傑作です。」 と言えるように本年度のしめくくりをしましょう。



3月13日（月）、その日がとうとう訪れました。来賓控室となった校長室で「うちの子どもたちを見てください。」そう言って、皆さんを式場にご案内しました。

式が始まってまず印象深かったのが、入場してくる卒業生の凛（りん）とした態度です。そして、圓通圭司学年主任はじめ学年の先生方もどこか誇らしげで、「やっぱり卒業生の担任をすることが、教員生活の花だな。」と実感させられました。

私から卒業証書を受け取る時の一人一人の表情も実に晴れやかで、私も自然に笑顔になっている自分を自覚していました。「この子たちを立派に送り出してやろう。」と式辞を読むときにも自ずと気合が入ります。また、正木義輝学校教育課長様からは教育委員会告示を、PTA会長 鈴木辰也様と市議会議員 安藤 聡様からそれぞれご祝辞を頂戴し、卒業生は喜びと決意を噛みしめているようでした。

送辞は在校生を代表して、現生徒会長の菊田茉菜（まな）さんが、「先輩方とこの校舎で会えないのかと思うと寂しさでいっぱいになりますが、私たちも前を向いて進んでいきます。皆さんが築き上げてきた伝統に誇りを持ち、一人一人が相手を思いやることのできる、温かい絆でこれからの三中を受け継いでいきます。」と決意を述べ、さらに「先輩方なら自分の意志を持ち、まっすぐに前進し、自分らしい色の輝いた花を咲かせてくださると信じています。」とエールを送りました。

これに呼応して、前生徒会長の小林杏優（あゆ）さんは、こう答辞を述べました。

私たちとともに三中を作ってきた在校生のみなさん、これからは皆さんが伝統を引き継ぐ番になります。須賀川三中の伝統を引き継ぎ、また新たな伝統を築き上げていってください。皆さんなら安心して任せられます。これからの在校生の皆さんの活躍を心から応援しています。私たちと一緒に活動してくれた日々は忘れません。『今まで本当にありがとう。』

卒業式は、卒業生にとっては義務教育のゴールであると同時に自己決定後の新たなスタートです。さらに、卒業生と在校生のこのようなやりとりからわかるのは、1, 2年生にとっても次のステージへのスタートであるということです。2年生が、次の私たちの最高傑作になります。1年生は2年生の背中を追いかけながら、次の次の私たちの最高傑作になってくれることでしょう。



# 贈る言葉～卒業文集より～

卒業文集から学年主任と進路指導主事（副担任）の言葉をご紹介します。少し汚くなってしまいましたが、それぞれの教師の思いをご理解いただければありがたいと思います。

## 学年主任 圓通圭司

### 「贈る言葉」

三年学年主任 圓通 圭司

平成二十八年は、『金』という言葉で象徴される年でした。オリンピックの金メダルラッシュは素晴らしい出来事でしたが、政治家のお金の使い方のルーズさはとんでもないことでした。人生を豊かに潤いを持って生きていくためには、お金も重要かもしれませんが、もっと大事なことがあります。

『人は、強くなければ生きていけない。優しくなければ生きていく資格がない。』

これは、アメリカのハードボイルド作家レイモンド・チャンドラーの作品に登場する、私立探偵フィリップ・マローウの言葉です。フィリップ・マローウは、探偵として依頼を遂行していく過程で、様々な困難にぶつかったり、裏切られたりしても、くじけずに立ち向かっていきます。決して現実から目をそらしたり、逃げ出したりしません。一人で、歯を食いしばって、真正面から立ち向かっていきます。

新しい一步を踏み出していく皆さんにも、その『心』の強さを持ってほしいと願って、私自身の座右の銘であるこの言葉を贈ります。

何があっても挫けず、負けると分かっている、逃げずに正面から立ち向かっていき、自分を甘やかさずに真つ正面から人生に向かってく、「精神的な強さ」と、他人の痛みを自分の痛みのように感じ、他人に思いやりを持って接することのできる「優しさ」を身につけて、温かい人間関係を作り生きていくてください。

周りの人々に愛情を注ぐことのできる「優しさ」は、精神的な「強さ」を持たなければ、本当のものとは言えません。自分の生き方を信じ、他人の気持ち（特に心の痛み）を思いやれる心、それが本当の「優しさ」だと思います。

損な生き方かもしれません。また、難しい生き方かもしれません。しかし、こんな生き方ができる人が、一人でも多く出てくることを願って……。

卒業おめでとう！

### 卒業に寄せて

石井 路子

覚えていますか？みなさんとの出会いのスタートは、ビデオの画面からでした。担任不在の入学式はさぞ非難轟々であろうと覚悟していました。実際、お叱りもたくさん受けました。そして次の日、教室での初対面に不安と期待で戸を開ける手が少し震えたのを覚えていました。でも不安は戸を開けた瞬間にどこかへ消え去ってしまいました。キラキラと輝いた笑顔で私を見つめる目がそこにあつたからです。本当にその笑顔は優しく温かく、天使のように見えました。心から一年三組だったみんなには感謝しています。楽しい一年間を過ごさせてもらいました。

そこからの三年間はいろいろありますが、今振り返ると楽しかったことの方が多かったように思います。一年生の時、授業中説教で終わることもしばしば。調理実習は冒険（笑）でしたね。二年生では修学旅行中の消灯時間の部屋訪問で、みんなの生音がわかるのが大変楽しかったです。三年生では、やはり松明の鉢巻き製作です。女子だらけの工場みたいに手際よくせつせつとよく働いてくれました。

そして何より、この三年間でみんな心身ともに大きくなりました（驚）！私の身長をいつの間にか越している人がたくさんいて、話すこともなんだから大人っぽくなり、ふと気がつくとならば反抗的な言葉ではなく、「先生、大丈夫？」といったわりの言葉をかけてくれるようになって……。

そんな心優しいみなさんと三年間ともに過ごすことができたことは、私の宝物です。ありがとうございます。

卒業に寄せて、どんな言葉を贈ろうかなと考えていたら、ふと自分が高校三年の時に出会った言葉を思い出したので、みなさんに贈ります。私は大学を決めるときにすごく悩んでいました。将来、私はどんな職業に就きたいのか、そのためにどこの大学を受験すべきか。入れる大学と入りたい大学、どちらを選択すべきか、などなど。

そんな時、ふと目にしたドラえもん言葉に頭を思いっきり叩かれたような気持ちになりました。今でも私の生き方の指針となっています。

きっとみなさんにもそんな壁が立ちました。その時がやってきます。そんな時に思い出して欲しいです。人生八十年、楽しく輝いて生きて欲しいと願っています。

みなさんの幸せな前途を心から祈っているからね！



42巻 P181 「右が左の人生コース」